

他の鹿賀乃戸勢では黒雲海は黒星先行とはなってきた。天我は4連勝で白星先行と持ち直して八日目を降も2人で星を伸ばして行けば先場所の勝間田部屋のように鹿富士と若雲山とでの同部屋決戦も出てきそう。鹿賀乃戸親方にとっては楽しみな残り4日間とならう。

1敗だった西安が連敗して優勝戦線から後退。電幕には左を差す展開から前に落ちての惜しい敗戦、まずは勝ち越したいと更なる星の上積みとしたいところ。東十四枚目の磯日ノ丸は連敗で負け越したとなり陥落が決まった。

(勝間田)

幕下は英部屋勢が好調

幕下は二日目。2連勝としたのは、大櫓、暫、英風、磯雷光、三國、菊地原、英吹雪、勝ノ川の8人。

東筆頭の大櫓が剣将を左差しから寄り切り、に退け一場所での十両返り咲きに王手。鹿賀乃戸親方の不安を払拭する相撲を見せた。

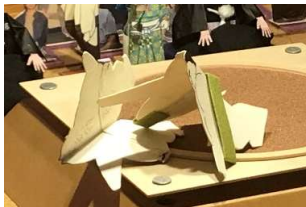
昇進に向け雪辱を期す暫は、花形を両者引き合う形から際どく叩き込んで価値ある白星を上げた。今場所こそはとの必死の思いが相撲にも表れているように。三日目は大櫓との対戦となりそう。



花形●(叩き込み)○暫



大櫓○(押し倒し)●剣将



西安●(上手投げ)○若雲山

英風が難敵の西神門を下投げに仕留める技ありの相撲を見せた。一元十両の意地を見せたね」と喜ぶ英親方。それとは対照的に、順当に勝ちを計算していた春日根親方の結果には、

しかし親方の誤算はそれだけでは終わらなかった。同じく初日白星だった西渡海が幕下2場所目の磯雷光に突き落とし、西の富士は三国に押し倒されて3人ともに連勝を阻まれる形となってしまう。

これには春日根親方も「こりや、まいったね」と笑顔の中にも悔しさが、優勝となれば十両昇進の期待も少なからずあったはず。しかし1敗は喫してしまっただけで勝ちは越してはいる。新幕下の英吹雪と勝ノ川は慎重な取り口で勝って三日目の相撲で勝ち越しをかけることとなる。

(勝間田)

三段目〜序の口

育成会は、当初二日目三日目と二日分の開催予定だったが、臨時理事会の開催により、時間が押して二日目のみの開催となった。

三段目最大の注目は、友砂親方が満を持して命名した期待の大型新人、巨鵬。二日目の相手は育成会の番人との異名を持つ磯自慢。弟子に対して好き嫌いの著しい磯ノ海親方から嫌われるどころが、忘れ去られたのが幸いして廃業を免れたが幸い力士だ。勝負は巨鵬の圧勝かと思われたが、先手をとった磯自慢が体重差をもつ磯自慢が押し出し、これだから紙相撲は面白い。



磯自慢○(押し倒し)●巨鵬



英風○(下手投げ)●西神門

三段目東筆頭の戸田は、勝ち越せば大松戸田に幕下として116回部屋として昇進した木田。兵庫の幕下力士となる。下力土屋の生後押しする戸田への声援で場内は沸いたが、こちらも戸田と同期の実力者勝錦に寄り切りで破れた。

他では春日根の西旭、桐壺の藤丸、勝間田の洪野、富士浪の亀風、磯ノ海の茅ヶ崎、綱櫻が2連勝。この中で優勝候補の筆頭は最近勢い著しい春日根部屋からの新鋭西旭だろう。部屋の兄弟子のテクニクを受け継いで、速攻から一気の寄り、力強い一気の寄り、東牙目まわりの寄りが、五枚目の今場所、全勝。第一気に幕下昇進を果たして欲しい。



磯螢●(下手投げ)○西旭

序二段、序の口では錦風部屋の新世代が大活躍。これからの力士が右攻め一辺倒の淡泊相撲で周囲からは冷めた目で見られがち、当の親方は「左を差すと見せかけて、右から攻めてるんだよ」と言いつつ、さすがに自責の念も、さすがに根の力士かと思われ、春の速攻相撲の力士を送り込んできた。



岡田●(寄り切り)○逆起

序二段では逆起が、倒れ口では逆馬山が、ぎ取り、親方を満足させ、馬山は勝星をも巨鵬に勝った相手は、巨鵬は続いた送り込んだ自信満々で送り込んだ。巨鵬と都



都川●(寄り切り)○逆馬山



勝錦○(寄り切り)●戸田

春日根勢が序二段で活躍。西強から他力岳に改名した他力岳が、改名効果ばっちり、一時は即幕下かと思しき錦風親方が絶賛した大松戸部屋が松賞した破、同じく2連勝の実力者虎麒麟との対戦が楽しみだ。

明るい話題としては乃戸部屋が若手が今場所所はとどろきあえず元気だ。序二段の陸皇、鹿電馬、序の口の新弟子鹿の郷が2連勝と好調さをアピールしている。

鹿の郷の四股名由来は岡山美作の名湯湯の郷温泉から。目下旅行業務管理者の資格勉強中の鹿賀乃戸親方が美作三湯、奥津、湯原湯の郷を覚えるために愛弟子の四股名に鹿の郷と命名したものだ。うだ。果たして一人場所、廃業して忘れられたいよう頑張りな。鹿賀乃戸



梅野●(寄り切り)○鹿の郷



陸皇○(押し倒し)●磯若



松山●(押し倒し)○他力岳

